

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和二年七月～九月分）

選者 志やくなげ 高野重治 先生

特選 天 薫風を孕む浄衣や青つむり 群馬県 奥木温子

「青つむり」とはここでは剃髪されたお坊さんのこと。青葉の風を吹き送る初夏、お坊様のさわやかな様子が感じられる佳句です。

特選 地 煽られて棚のひさまこの落ちつかず 愛知県 平野辰美

ひさまことはひょうたんのこと。風の強く吹く日のひょうたんの様子を「落ちつかず」と活写され臨場感のある佳句となりました。

特選 人 長梅雨や居間に笑ひの種を撒く 群馬県 仙田美名代

外出もままならない長梅雨の一日、お茶の時間でしょう。みんなが集まっている時に洒落か駄洒落でその座を笑いで和ませた情景が目につかびます。

入選 名を彫りし長寿箸受く敬老日 愛媛県 河本坦

入選 遠郭公水面を渡る風に聞く 群馬県 町田宏

入選 岩荒く奇勝妙義の青嶺かな 群馬県 天野幸尖

入選 久しぶり竹の子汁に地酒合う 群馬県 相川芳夫

入選 百合の香の満つる仏間に稿起す 群馬県 鈴木百合子

入選 幼子のえくぼふくらむさくらんぼ 群馬県 竹渕千恵子

入選 密さけてゆつたりとぬく草取女 長野市 浦野スミ子